

【山崎主宰の俳句】

ぬうとすう

山崎 聰

螻蛄鳴いて一伍一什は風の中  
落城の翌日のよう崩れ築  
病院の十一月の長廊下  
黄落は風神さまの出来ごころ  
ぬうと来てすうと帰りぬ神の留守  
東京にはじめての雪男の子  
十二月八日のあとの朝の景  
泥土なおかくのごとくに年暮るる  
三丁目交差点前雪だるま  
谷中千駄木遊んで遊んで年おわる